

2005年3月期 中間決算説明会

(2004年4月1日～2004年9月30日)



 **SEIKOH GIKEN**

2004年11月15日

I. 2005年3月期中間連結決算概要 及び通期連結業績見通し

II. 中期経営戦略

I . 2005年3月期中間連結決算概要 及び通期連結決算見通し

2005年3月期 中間連結決算ハイライト①

(百万円)	2005年3月期 中間	2004年3月期 中間	対前期 増減率	業績予想値 (2004/5/21)
売上高	3,376	3,059	10.3%	3,250
精機部門	2,828	2,652	6.6%	2,700
光製品部門	548	407	34.4%	550
営業利益	1,079	867	24.4%	1,050
経常利益	1,184	793	49.2%	1,050
当期純利益	1,029	520	98.0%	600

- 上期業績は前期実績を上回り、ほぼ業績予想どおりに推移
- 税効果会計により当期純利益が大幅に増加 (11月9日修正発表)

2005年3月期 中間連結決算ハイライト②

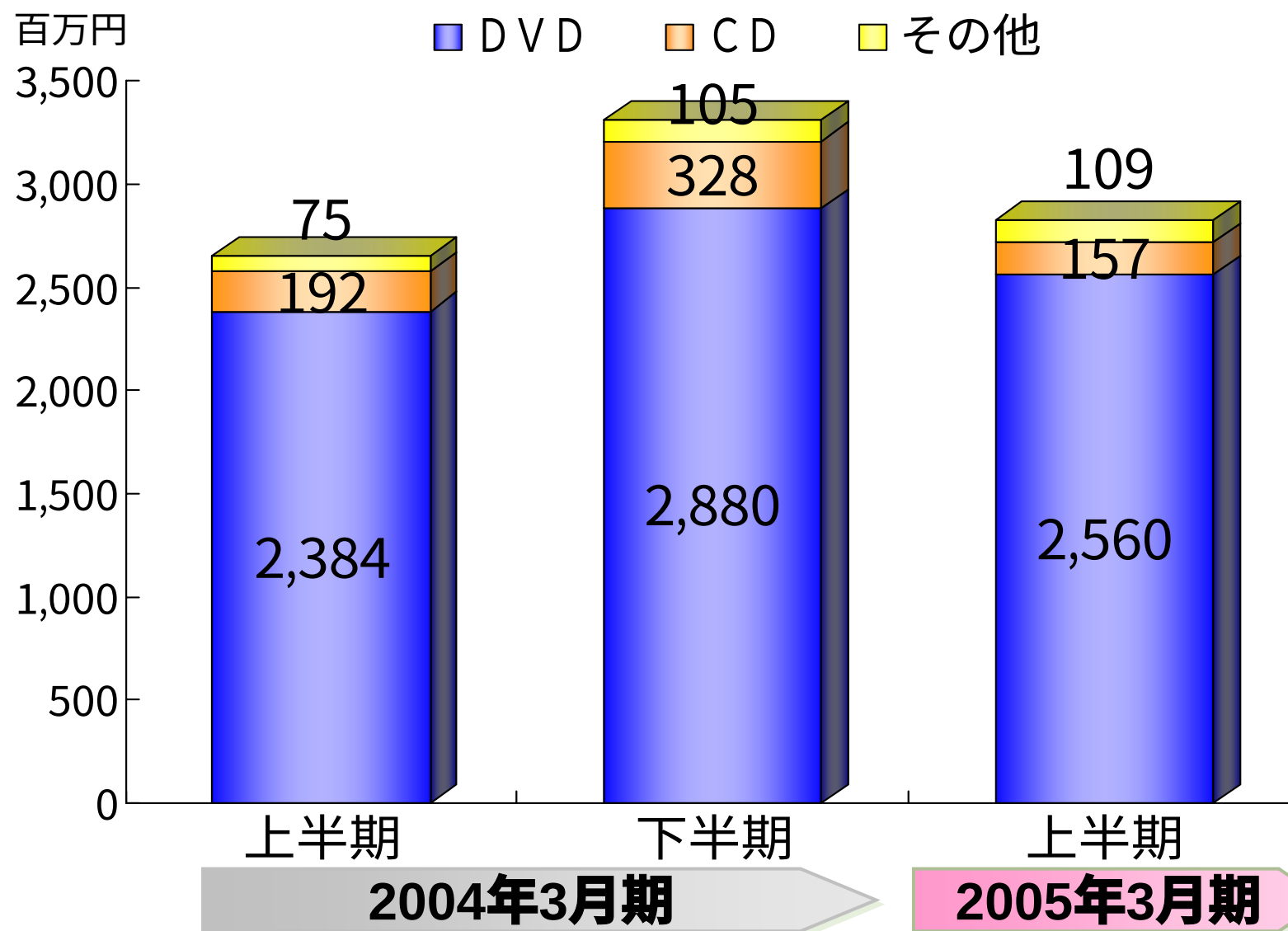
(百万円)	2005年3月期 中間	2004年3月期 中間	対前期 増減率
受注高	2,829	2,788	1.4%
受注残	907	1,054	△13.9%
設備投資	70	243	△71.0%
減価償却費	248	229	8.3%
研究開発費	178	161	10.6%

セグメント業績／精機部門

(百万円)	2005年3月期 中 間	2004年3月期 中 間	対前期 増減率
売上高	2,828	2,652	6.6%
営業費用	1,685	1,558	8.2%
営業利益	1,142	1,093	4.5%
営業利益率	40.4%	41.2%	△0.8%

- DVD成形用金型の出荷は堅調
- メンテナンス事業は着実に成長

セグメント別売上高／精機部門

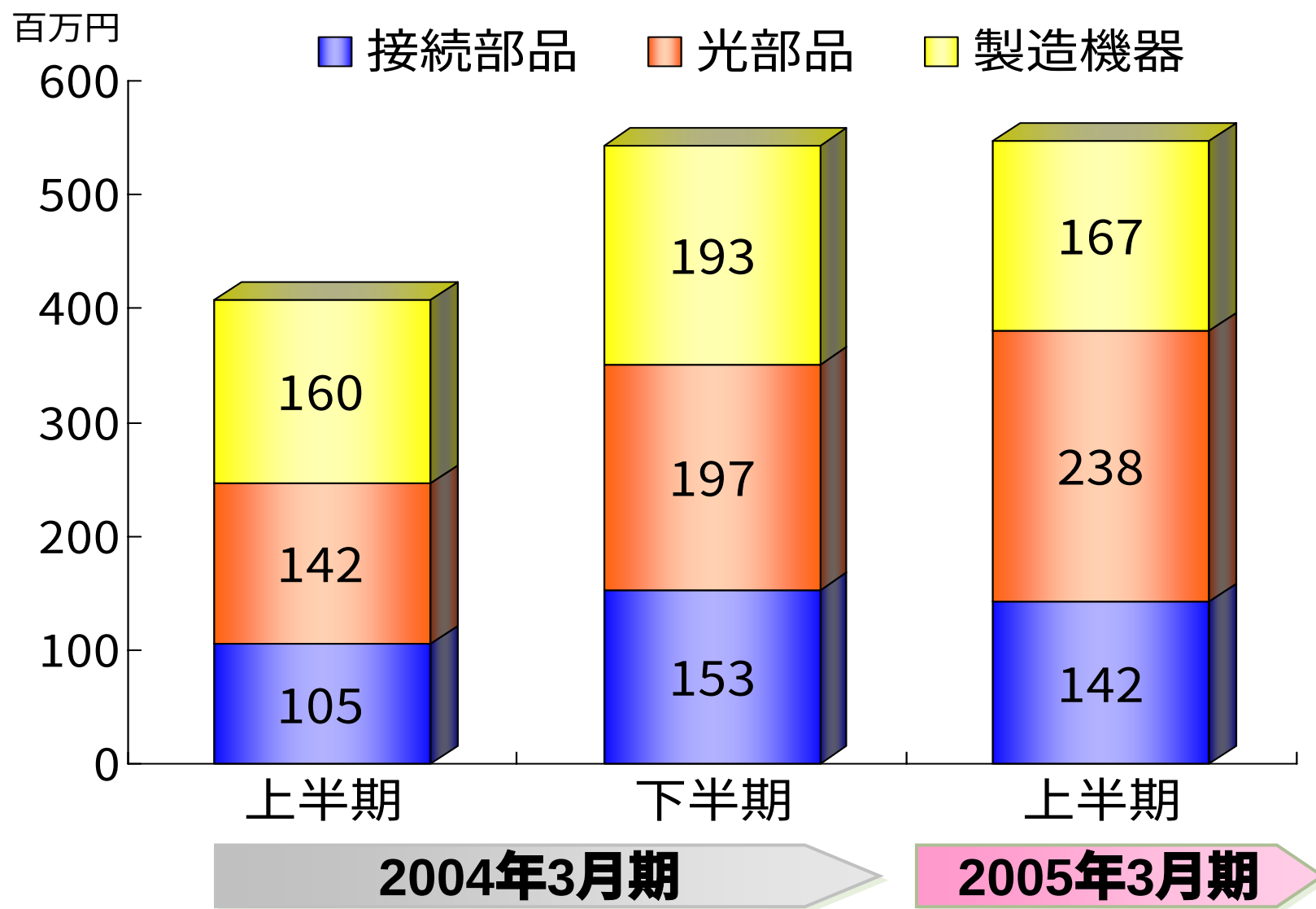


セグメント業績／光製品部門

(百万円)	2005年3月期 中 間	2004年3月期 中 間	対前期 増減率
売上高	548	407	34.4%
営業費用	611	634	△3.5%
営業利益	△63	△226	—
営業利益率	△11.5%	△55.5%	44.0%

- メトロ・アクセス系市場の立ち上がりを受け、売上高は増加
- 不採算商品の見直しや原価低減により、赤字幅は縮小

セグメント別売上高／光製品部門



中間連結貸借対照表

(百万円)

科 目	2005年3月期 中間	2004年3月期	増減額
<資産の部>			
流動資産	15,944	15,809	+135
固定資産	9,121	9,329	△208
資産合計	25,065	25,138	△73
<負債及び資本の部>			
流動負債	939	1,614	△675
固定負債	534	522	+12
資本の部	23,531	22,946	+585
負債・資本合計	25,065	25,138	△73

中間連結キャッシュフロー計算書

(百万円)		
項 目	2005年3月期 中間	2004年3月期
営業 C F	435	122
投資 C F	△225	△1,167
財務 C F	△383	△177
現金増加額	△170	△1,253
期首残高	10,902	12,156
期末残高	10,732	10,902

2005年3月期 通期連結業績見通し

(百万円)	上半期 実績	下半期 見通し	通期 見通し	前期実績	対前期 増減率	期初予想 (04/5/21)
売上高	3,376	2,674	6,050	6,918	△12.5%	6,050
営業利益	1,079	521	1,600	2,291	△30.2%	1,600
経常利益	1,184	416	1,600	2,168	△26.2%	1,600
当期純利益	1,029	371	1,400	1,391	0.6%	900
設備投資	70	486	556	547	1.6%	503
減価償却費	248	274	522	479	9.0%	544
研究開発費	178	190	368	381	△3.4%	369

2005年3月期 通期連結業績見通し (部門別)

	精機部門		光製品部門		(百万円)
	上期実績	下期予想	上期実績	下期予想	通期予想
売上高	2,828	1,872	548	802	6,050
営業費用	1,685	1,294	611	859	4,450
営業利益	1,142	578	△63	△57	1,600

II. 中期経営戦略 SGTOP 2005

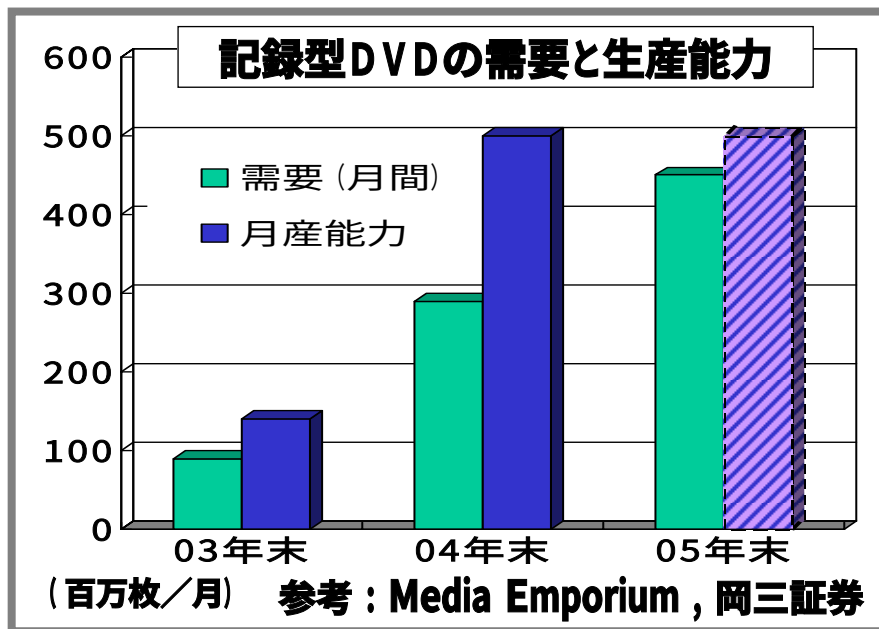
中期経営戦略 SGTOP 2005

S:	S peed	(スピード)
G:	G et through	(成し遂げる)
T:	T rust	(信頼)
O:	O riginality	(独創性)
P:	P rogress	(積極的なコミュニケーション)

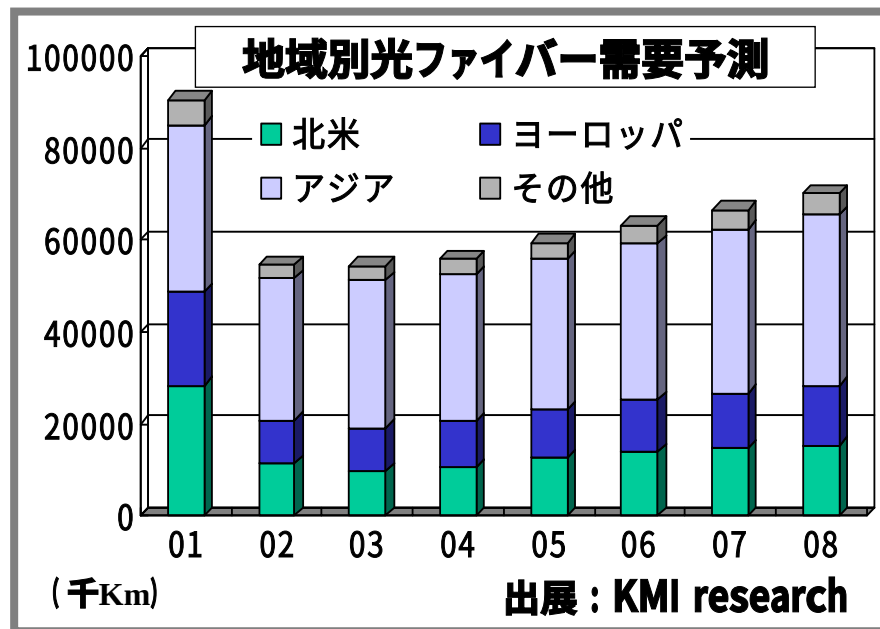
SGTOP = トップになる / トップを維持する

経営環境

記録型DVDの生産能力は需要を超過



光通信市場の成長は極めて緩やか



新しい事業への進出、創出が必要

成長の方向性

当社のコア技術を軸に
新技術の開発・導入で、
付加価値の高い
『小型精密部品事業』への
事業展開を図る

中期経営方針

既存事業の安定成長

1. 金型事業と光部品事業の安定化
2. 販売・開発の強化による既存事業の成長

新規事業の立ち上げ

1. M&A等による新技術の導入で精密部品事業へ進出
2. コア技術を軸とした新製品開発により付加価値の高い部品事業の立上

既存事業の安定成長①：金型事業

金型事業の特徴①

金型は『生産財』であり、
金型事業は『受身』の事業

金型事業の特徴②

『設備投資動向』の
影響を強く受ける

事業方針 「光ディスク金型のトップブランド」を維持拡大

1. メンテナンス事業の強化

2. 次世代ディスク対応 (2005年度後半～／Blu-ray、HD-DVD)

既存事業の安定成長②：光部品事業

部品事業の特徴①

『生産財』に比べ
事業の波は小さい

部品事業の特徴②

半導体サイクル等の
周期的な変動が起こる

光通信部品業界は
未曾有の市場崩壊を経験

事業方針

「OPTOの接続」における企業ブランド確立

1. 通信業界向け販売・開発の強化による利益拡大

2. 非通信業界へ事業領域を拡大 (自動車、バイオ、エネルギー等)

新事業の立ち上げ①

新技術の導入で
精密部品事業へ進出

1. 各種成形技術

2. 精密プレス技術

3. 量産技術 等

M&Aにより技術（部品製造・各種金型）の導入を図る

事業立上は2004年度から段階的に実施

新事業の立ち上げ②

コア技術を軸とした
新製品開発により
付加価値の高い
部品事業の立上

1. 各種センサー部品

2. エネルギー部品

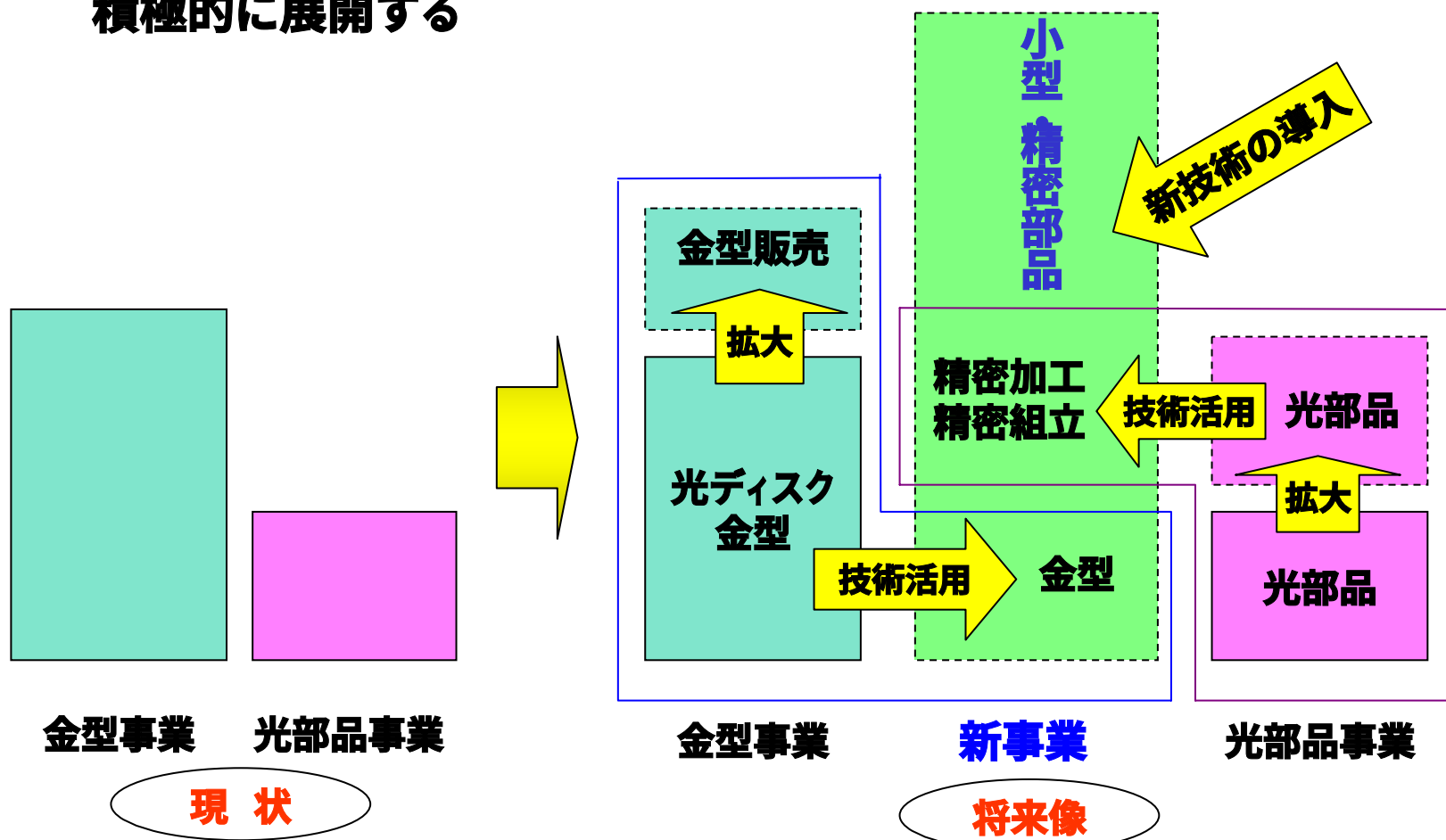
3. 薄肉成形部品 等

他企業との積極的な技術提携、共同開発

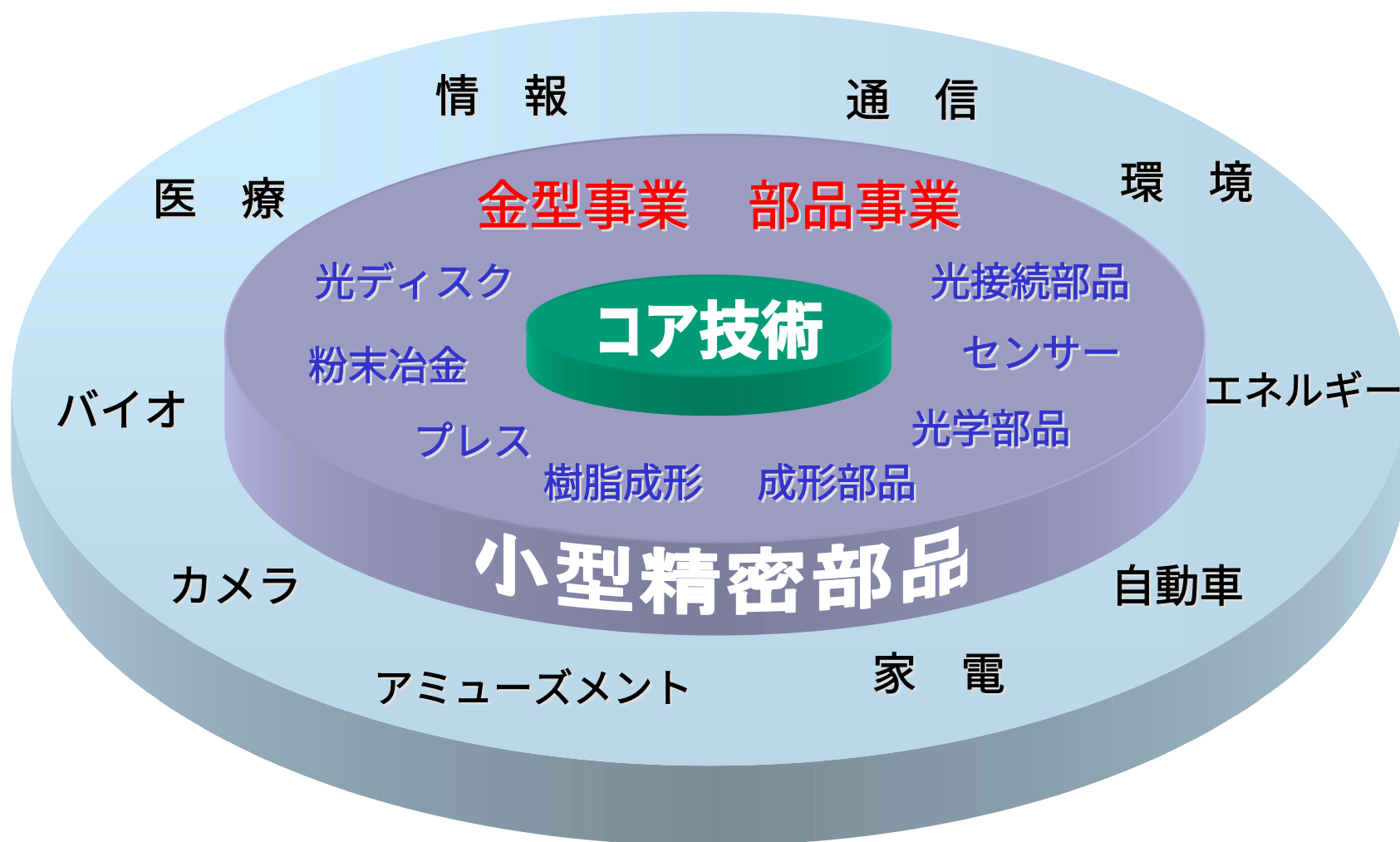
事業立上は2006年度以降

中期的な事業展開

- ◆ 金型・光部品の既存事業を拡大する
- ◆ 既存事業で培った技術を軸に、新しい技術を加え、**新たな事業**を積極的に展開する



事業領域



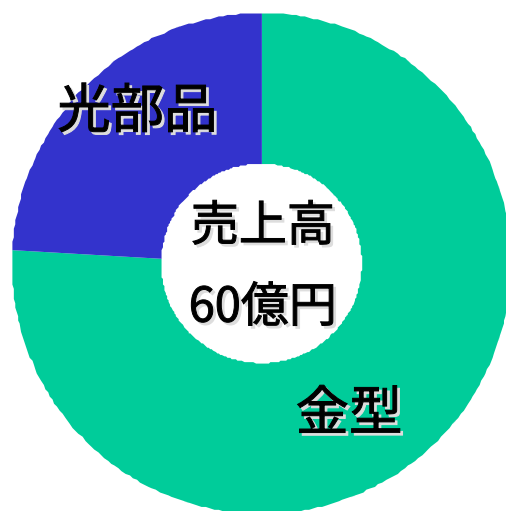
中期経営目標

2004年度

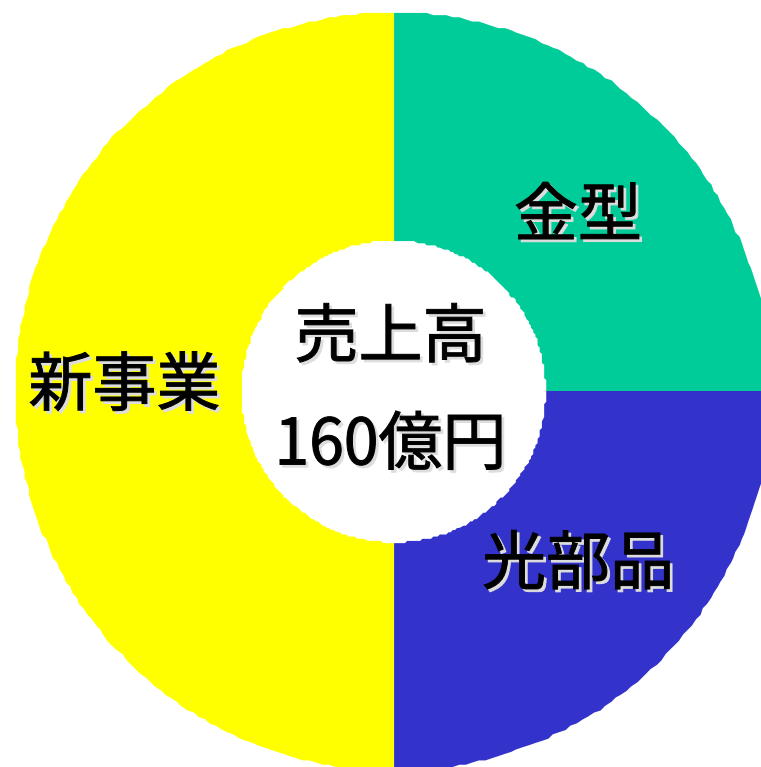
2005年度

2006年度

2007年度



積極的な事業投資



営業利益率 20%以上

2005年3月期 中間決算説明会

